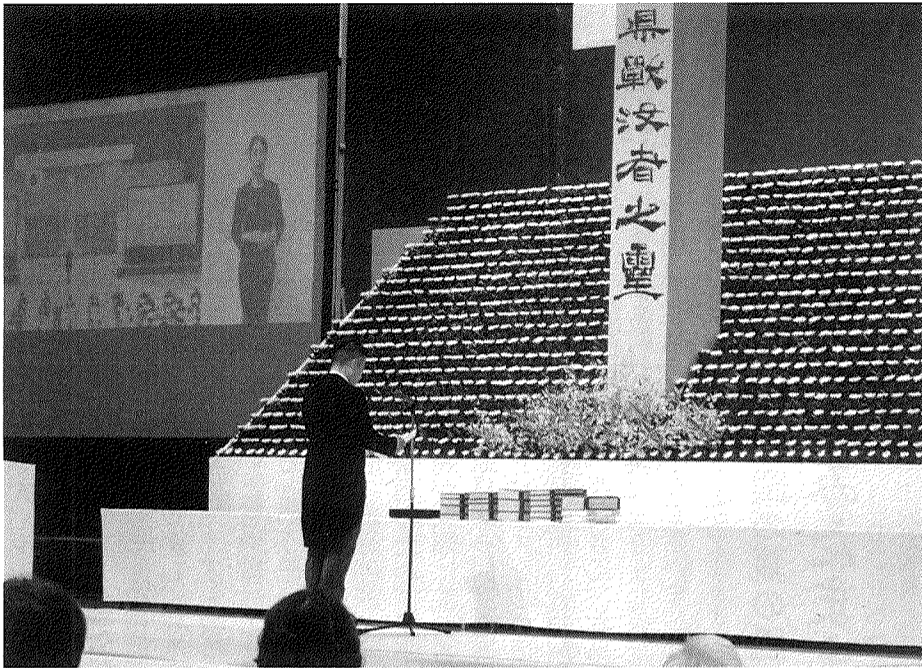


戦争の悲惨さ、平和の尊さ、友好交流の貴重さを次の世代に語り継ぐ

令和3年平和祈念 滋賀県戦没者追悼式



発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会会長
大長 弥宗治



1300本の菊で飾られた祭壇の前に式辞を述べる三日月知事

今年も滋賀県主催の「令和3年平和祈念滋賀県戦没者追悼式」が8月28日、大津市の滋賀県立体育館（ウカルちゃんアリーナ）で開催された。

昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止（緊急事態宣言発令中）のため、滋賀県遺族会の役員及び各市町の代表者と全国戦没者追悼式への参列予定の方（制限のため急遽各県1名に）と来賓の方を含め、1338名と規模を縮小して開催された。

式場には、神田浩山滋賀県書道協会理事長の揮毫による「滋賀県戦没者の霊」の標柱と菊花1300本で飾られた祭壇が据えられ、左右には大型スクリーンが設置された。また、正面壇上には県下3万2千余柱の戦没者名簿と出身地が記載された芳名帳が祀られる。

中、式典が挙行された。式典の司会進行は、滋賀県遺族会青年委員の貴多祐美子さんによって行われた。国歌が奏された後、三日月大造知事は式辞で「この式典が若い世代の方々への眼にふれ、歴史をひもとくとき、先の大戦とは何だったのか、平和を実現するために一人ひとりが何を為すべきかを考えていただくきっかけになることを期待する」と、さらに「戦争がなくなるという、強い意志を持ち、歩みを始めてほしい」と述べられた。

平和を受け継ぐために

近江兄弟社中学校1年 麻中 望

なぜ戦争について学校で学ぶのでしょうか？
幼かった頃の私は、戦争に対してこんなイメージがありました。怖くて、すごく昔のことで、自分に関係ない出来事、戦争のお話を聞くのも、とても怖くて、できれば聞きたくないなと思っていました。小学生になっ

い。戦争の愚かさ、そして平和の尊さを次の世代に語り継ぐ責務が今に生きる私たちの使命である」と戦没者の前で誓った。

続いて、参列者全員の花の献花の後、近江兄弟社中学校1年の麻中望さんが「平和を受け継ぐために」と題した平和メッセージを発表された。「平和とは何か、平和とは世界中のすべての人が安心して、笑顔で過ごせることです。しかし平和はゆるくて崩れやすいものではない。今まで学んできた戦争の恐ろしさや悲しみを次の世代に受け継いでいきます」と力強く訴え、参列者の賛同を得た。

コロナ禍に今年も参列者は縮小されたものの、立派な式典を挙行された県当局にお礼を申し上げます。

(広報 吉岡 武彦)

ても、正直「昔のことだからわからない」と思っている。戦争で何を学んだのか、何をされたのか、よく知ろうとしました。姉に連れられて参加した滋賀県平和祈念館の平和学習講座で、戦前生まれの人がおっしゃっていました。「戦争は教科書

に載っている歴史上の出来事ではない。私たちに与っては、生きてきた人生の一部分で、ほんのちよつと前の出来事です」と。私はそれを聞いて、遠い昔の出来事ではなく、実際に経験して辛かった人がまだまだ身近にたくさんいることに、初めて気づきました。今立っている場所も、普段目にしてる街も、すべての場所に戦争の影響があり、つらい思いや悲しい思いをした人がいたこと、76年前まで実際にあったことなんだと、とても身近な出来事として実感できました。

中学生になった今、改めて考えてみました。なぜ戦争について学ぶのか？
何人の人がこの戦争で命を落としたのか、どんな悲しい出来事が起こったのか、そういった事実をきちんと知り、日本が外国に対してどんなことをしたのか、日本が何をされたのか、加害の歴史も被害の歴史も、私達は学ばないといけません。私が考える学ぶ理由で一番大切なものは、「戦争



麻中望さん

で亡くなった人達、そしてその人達の家族の悲しさや怒りを無かったことにしないため」だと思えます。戦争は関わったすべての人の心を傷つけます。出来事や事実だけではなく、その人達の思いを引き継ぐために、戦争を知らない私には、何ができるのでしょうか。

戦争を経験した人の気持ちを100%知ることからは出来ないけれど、自分から知りたいと歩み寄ることが大切です。昔のことだからわからない、自分には関係ないと決めつけてしまつたら、何も知ることにはできません。今の日本は平和なんだから、戦争のことなんか知らなくていいじゃないかと思う若い人もいます。でも、本当に今の日本は平和でしょうか？ 今の世界は平和でしょうか？

戦争には目に見える形があります。国と国が争い合い、敵対します。平和は目に見えません。平和に形はありません。一見、平和に見える今の日本も、いくつかの国と領土についての争いがあります。言葉による暴力や行動による争いがあり、立場や意見の違う人を攻撃しています。差別が行き過ぎた暴力を生んでいます。

では、平和とはなんですか？ 私の思う平和とは、世界中すべての人が安心して笑顔で過ごせることです。そして、世界中すべての人が「明日が来る」と信じられることだと思います。

いつ死んでしまうか、いつ家が焼けてしまうかわからない恐怖。もうじき生まれる子供の顔も見ずに戦地に行き、生まれた子供を見ることなく亡くなった父親。朝、いつも通り学校へ行き、そこへ原爆が落ち「ただいま」を言えなかつた子供。戦地に送り出した息子の帰りを待ちながら空襲にあい亡くなった母親。たくさんの人達に、今日と同じ明日は来ませんでした。戦争中は、今日と同じように明日が来るとは限りません。

たくさんの方が悲しい思いをし、傷ついた戦争。しかし、一日一日戦争日から遠ざかっていくため、戦争の恐ろしさや悲しみを知らない人が減っていきつてしまいます。50年後も100年後も戦争の記憶や傷、悲しい思いを引き継ぐため、これから学び続けたいと思えます。

平和ほど、もろく崩れやすいものは他にありません。だからこそ、皆で協力して守らなさいと簡単に壊れてしまいます。このもろく崩れやすい平和を守るために私は、今まで学んできた戦争の恐ろしさや悲しみを次の世代へ受け継いでいきます。

では、平和とはなんですか？ 私の思う平和とは、世界中すべての人が安心して笑顔で過ごせることです。そして、世界中すべての人が「明日が来る」と信じられることだと思います。

いつ死んでしまうか、いつ家が焼けてしまうかわからない恐怖。もうじき生まれる子供の顔も見ずに戦地に行き、生まれた子供を見ることなく亡くなった父親。朝、いつも通り学校へ行き、そこへ原爆が落ち「ただいま」を言えなかつた子供。戦地に送り出した息子の帰りを待ちながら空襲にあい亡くなった母親。たくさんの人達に、今日と同じ明日は来ませんでした。戦争中は、今日と同じように明日が来るとは限りません。

たくさんの方が悲しい思いをし、傷ついた戦争。しかし、一日一日戦争日から遠ざかっていくため、戦争の恐ろしさや悲しみを知らない人が減っていきつてしまいます。50年後も100年後も戦争の記憶や傷、悲しい思いを引き継ぐため、これから学び続けたいと思えます。

平和ほど、もろく崩れやすいものは他にありません。だからこそ、皆で協力して守らなさいと簡単に壊れてしまいます。このもろく崩れやすい平和を守るために私は、今まで学んできた戦争の恐ろしさや悲しみを次の世代へ受け継いでいきます。

全国戦没者追悼式に参加して

高島市遺族会 竹井 昌夫

日本武道館で開催された令和3年度全国戦没者追悼式に参加し滋賀県を代表して献花させて頂きました。

今回の追悼式は、新型コロナウイルス感染症のため異例の追悼式となりました。遺家族の参加は府県1名に限定され、直前に緊急事態宣言が出たため、22府県が欠席となり、参加者総数は過去最少の185名でした。

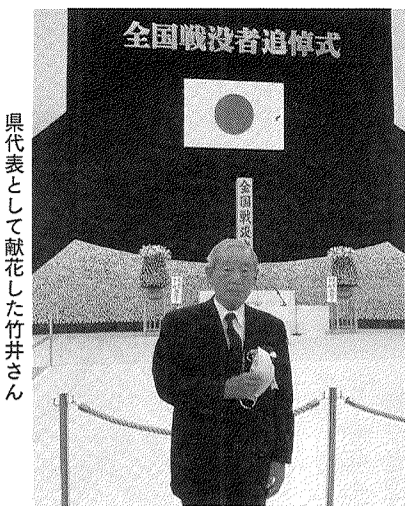
戦没者の妻の参加が初めて途絶え、国歌は演奏のみで斉唱はできませんでした。この会場でオーケストラの生演奏で斉唱できればより感激の深いものであったろうと思つと残念でなりません。

天皇皇后両陛下をお迎えし、国歌斉唱と1分間の黙とうを捧げました。天皇陛下のお言葉に「深い反省」が盛り込まれ、「再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願う」と話されました。菅首相は式辞で「戦争の惨禍を二度と繰り返さない。この信念をこれからも貫

いてまいります」と不戦を誓われました。

また、私は献花に際し、この会場の醸し出す重層な雰囲気の中で、思わず生唾をぐくりと飲み込む非常に深い緊張感を味わいました。そして改めて戦没者を追悼する意味を考えました。それは、戦没者が最後どんな思いで死んでいったか。日本国万歳ではなく、それぞれ妻のこと、両親のこと、肉親のことを思う無念の死であつたと考えます。

私には、我々と同じ無駄な死はしてほしくない、二度と戦争はしてほしくないという戦没者の思いが聞こえました。幸い、戦争をしないという法の歯止めがあり、平和な時代が続きました。戦争の悲惨さを知らない人達が大半を占める現在、戦争の痛みを知らない人達に理解される方法で戦争の悲惨さを訴え続ける必要があります。戦後76年が経ちました。皮肉なことに戦勝国のアメリカには戦後という言葉が使われ方がなく



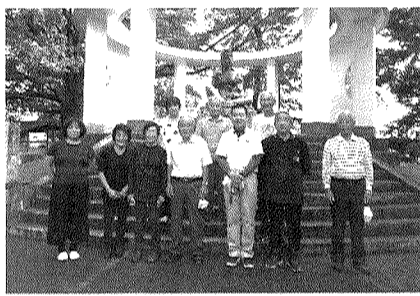
県代表として献花した竹井さん

れてきたバランスがともすればやられたらやり返すという世論が普通になつてくることを危惧しています。しかし、我々戦没者家族は二度と戦争をしないと断言し続ける必要があるという思いを新たにしました。

今回、前線停滞で記録的な豪雨のため、県下の交通網が大幅に乱れるなか、前日から何度も適切なアドバイスをして頂いた滋賀県の担当者瀬戸口さん、西村さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

月例清掃奉仕に知事も参加

滋賀県戦没者英霊塔 英霊顕彰委員会 伴 忠信



清掃奉仕の参加者

8月20日、大津市の膳所城跡公園にある滋賀県戦没者英霊塔の清掃を、三日月知事、県秘書課と健康医療福祉部の皆様、遺族会事務局、英霊顕彰委員会の主要メンバーで行いました。

記念月で関連事業が多く清掃が出来ておりませんでした。三日月知事から発案いただき英霊顕彰委員会が対応させて頂いた。き英霊塔周りの草取りや落葉の清掃を実施しました。昭和30年に建立されたこの英霊塔は、国難に殉じ尊い命を国家にささげられた英霊を慰め、恒久平和を誓い祈りを込めて慈母観音様が祀られております。

観音様膝下、地下は堂宇となっており、観音様の後姿を見ながら入堂します。正面に滋賀県出身の戦没者3万2千余柱の御霊を記した過去帳が納められています。両側ガラス戸の祭壇には戦没者のお位牌が祀られており、戒名・俗名の方々が整然と並んでおられます。小さなお位牌ですが、

これだけ数多く目にする戦没者の御霊を、愚かさ、悲しさと平和の尊さを再認識させられます。毎月15日に英霊塔の清掃に奉仕いただいております。是非ご参加をお願いいたします。

湖国の夏の風物詩 「みたままつり」 厳かに斎行

祭祀委員会「みたま」委員長 吉島 利博

今年で45回となる「みたままつり」が、滋賀県遺族会主催で8月13日から15日までの3日間、彦根市の滋賀県護国神社で斎行されました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のまん延のため、規模を縮小し、「神事」のみとなりご献灯頂いた短冊も吊ることができず、来年に持ち越すという例のない残念な年でもありました。



点灯された提灯

今年度もあり実施が危ぶまれ、今年も「神事」のみかと心配しましたが、皆様方の決断より実施することができました。昨年からお預かりしている短冊も吊ることができ、何より御霊が喜びのことだったと思います。

境内には、約4500灯の提灯が飾られ、初日の午後6時に点灯式が行われ、点灯した燈を見ることで、心から安堵いたしました。しかし、途中、新型コロナウイルス感染症拡大で県下もまん延防止地区の指定を受け、又、長雨が続き、我々みたま委員会の委員も心配しました。皆さんのご協力のおかげで無事に終えることができました。

15日には、日本武道館の政府主催全国戦没者追悼式と併せ、滋賀県戦没者追悼慰霊祭が行われ、正午には黙祷をいたしました。衆議院議員、参議院議員、滋賀県議会議長、各議員と多くの来賓を迎

え、滞りなく盛大に執り行われ、又、参拝客も悪天候にかかわらず多数お参りして頂きました。尚、提灯の撤収については、雨が降ったりやんだり好天候待ちとなり、予定どおりに進まず、近隣の方々に撤収作業を手伝っていただいたり関係者各位にはご迷惑をおかけしました。

遺族会も高齢化して参りました。当初3段あつた提灯棚が2段となり、短冊を吊るす際、その2段でも高いので危ないなどの意見を多く聞くようになりました。青年部にバトンタッチするにも皆さん働き盛り、せめて短冊吊りだけでもお手伝いいただけるとありがたいなと思う今日この頃です。湖国の夏の風物詩の燈を閉ざすことなく、いつまでも守っていきたいという気持ちは誰しも同じではないでしょうか。

最後に参りましたが、今回のみたままつりに当たり、みたま委員はじめ関係者の皆様には、準備から提灯の撤収まで、いろいろご協力頂き感謝致しております。誠に有り難うございました。

滋賀県護国神社 英霊顕彰館だより

◆滋賀県護国神社 英霊顕彰館だより◆
今日本に平和が続いているのは、かつて日本のために戦ってくださった英霊の皆さまのおかげです。私もただ平和を享受するだけでなく、後世に継いでいけるように頑張ります。戦争を再び繰り返すことのないよう、見守って下さい。ありがとうございました。
(滋賀大経済学部Sさん 男性)

76年前の8月、小生8歳で終戦、今日唯一、日本だけが、平和と繁栄・安心・安全が守られています。それは先の大戦で戦いの果てに若い尊い命を、国に捧げられた多くの人々の犠牲の上に築かれた事実を決して忘れてはならないし、人々の無念の思い、悲しみと怒りを残し、その痛みをいつか記憶は今も胸に焼き付いて離れない。戦争という罪悪と、平和の尊さを改めて訴えていきたいと思います。
(東近江市Hさん 男性)

先の見えないコロナの状況で、遺族会の主要行事は、今年も中止・縮小を余儀なくされ、今までの普通の生活のありがたさを、改めて思っています。しかし、今夏のオリンピックでは、彦根市出身の大橋選手の水泳女子個人メドレーの2種目の金メダル。パラリンピックでは、栗東市出身の木村選手の1000円平泳ぎの銀メダル獲得の朗報があり、県民の士気を高揚させてくれました。

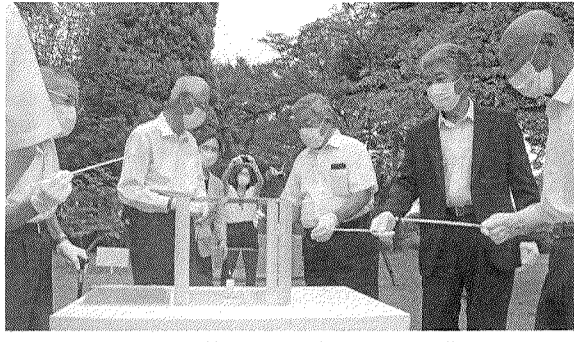
時を同じくして、本県にも、緊急事態宣言が発出されましたが、漸くトンネルの出口を感じるような雰囲気が出てきました。あと一息！ みんなで頑張ってください！
(彦根市遺族会 原 幸男)

たいげいなみ

「平和を誓うつどい」とその「平和の火」が「パラリンピック」聖火リレーの種火に

守山市遺族会 岡本 勝一

広島に原爆が投下された8月6日に毎年開催される守山市主催の「平和を誓うつどい」の式典がコロナ対策を講じた上で規模を縮小して、守山市運動公園・平和の広場で行われました。



守山市内の神社・仏閣で採取した火を集火

市長、副市長、議長、教育長、自治連合会長、市職員はじめ当地県会議員、市会議員、そして市内小・中・高校生代表及び守山市遺族会会長以下各支部長等総勢150名の出席の下、午前8時5分に開会されました。今回は特別に、遺族会による守山市内7学区の神社・仏閣より採取した火を集火し、玉津小学校生徒代表2名により「かがり火台」に献火され、原爆投下時刻の8時15分に全員で黙祷を捧げました。

青年部・女性部合同による奉仕活動

滋賀県護国神社

去る9月26日、青年部11名、女性部11名、青年部担当副会長、事務局長の参加を得て、秋の例大祭前の清掃奉仕を実施した。

当日は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下ではあったが、感染防止対策を十分に講じた上で、まず御祈禱

を賜り、英霊の御霊への感謝、護国神社の繁栄を真心込めて祈願した。続いて、参道周辺の除草作業に移る。清掃奉仕においては、神前を清めることは、御祭神への敬意と感謝を表すおこないであるとの想いから、春秋例大祭前には恒例行事として、ご

戦争の悲惨さを思い知らされた。二度とこのような悲惨な戦争を起してはならない。私達は平和な世界の実現に努力する事を誓います」と力強く訴えられた後、各代表者による「献鶴」がありました。最後に、来賓として守山市遺族会会長山川芳志郎氏が「8月15日終戦日の前日、守山市内立田地先で米軍飛行機と日本軍機の空中戦があり、日本軍の飛行機が墜落、乗っていたパイロット1人が戦死した」という事実についての話があり、同年7月30日にあった「守山空襲」も守山市にも戦争の傷跡があったことを風化させてはならないと強調され、「語り継ぐ残された傷跡」を合言葉にこれからも遺族会活動を展開する旨の挨拶がありました。

式典終了後、今年の「東京2020パラリンピック」開催にあたり、今回の「平和を誓うつどい」で採取された「平和の火」をパラリンピックの聖火リレーの種火として、パラスリートの滋賀県代表で「滋賀県ゴールボール

奉仕させて頂いている。作業終了時には、緑の草が視界から消え、玉砂利・石畳の美しい参道へと一変し、例大祭を迎える準備が整った。その後は、青年部・女性部別々で、委員会会議を感染防止に配慮する形式で実施。女性部では、目前に迫る「女性部研修会」の内容・役割を再確認すると同時に、何よりも参加者の健康・安全を第一に取り組む事を周知徹底し、終了とした。

協会一會長の西村秀樹さんにより採取されました。8月15日、滋賀県平和祈念

戦地への葉書と戦地からの葉書

東近江市遺族会 野村 衣子

先日、親戚でお隣のおばあさんが94歳を目前に亡くなった。昭和18年に当時15・16歳の乙女であったそのおばあさんが、私の父に葉書を出して下さっていたらしい。宛所に届いたとき、父はすでに戦地を変わっていたらしく戻ってきたようだ。

「兵隊さんのお陰で私たちは平穏な暮らしができています」とか、「孝子ちゃん(姉)も衣子ちゃんも元気になっています。衣子ちゃんも最近言葉を覚え、私たちに愛嬌をふりまいてくれている姿が何ともた



戦地への便りに使われた葉書

館の「平和の燈」から採取された火と、守山市の「平和を誓うつどい」の「平和の火」、

野洲市内障害者就労施設できりもみ式火起こし器で起こした火、そして甲賀市の伝統的

とえようがない程かわいらしい」とか、日常を知らせてく

父の元へこの報告が届いていないことは残念ではあるが、届いていたら我が家の事を、母が送った写真でしか見た事のない私の事を知らせて下さっていたという事はわからなかった事なので、今となっては貴重な物となっている。母が亡くなり、遺品の中にこのおばあさんの差出人で戻ってきてしまった一枚も一緒にファイイルしたことを覚えていたので、連夜まじりの時にその葉書を家族に見てもらった。

皇子山陸軍墓地と膳所英霊塔の彼岸法要

滋賀県遺族会事務局長 森野 愛子

毎年秋に行う皇子山陸軍墓地と膳所英霊塔の彼岸法要。今年も9月15日に行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症により全員参加のお参りは見合わせる事となりました。

もあり、大津市仏教会から導師を招き、お経を唱えていただき、お花やお供えをした。コロナ禍ではあるが、年に一度の彼岸法要なので、お参りいただく方も多くあり、みんなで合掌した。



皇子山陸軍墓地

「令和3年度滋賀県戦没者遺族大会」延期のご案内

令和3年度滋賀県戦没者遺族大会を10月23日に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して、令和4年2月27日に延期して、近江八幡文化会館で開催します。

「第48回靖国神社参拝・下田温泉旅行」のご案内

第48回靖国神社参拝・下田温泉旅行を令和4年3月6・7日に実施します(感染予防を考慮して先着200名)。募集については、12月上旬に各郡市町遺族会を通じて案内します。



例大祭前の護国神社清掃作業

戦争体験や遺品の展示に反響

「第29回平和のよろこび展」

守山市遺族会会長 山川 芳志郎



遺品展示コーナー

7月30日から8月6日の一週間、守山市伝統の「第29回平和のよろこび展」を開催しました。

コロナウイルス流行の最中の開催でしたので、次のように安全には万全を期しました。①マスク着用、②検温、③芳名録をやめ一人ずつカード形式で出席者名を記入、④記入に使った鉛筆は一回ずつ消毒、⑤三密をさけるため入場制限を実施。

今回の平和のよろこび展は次の5領域で実施しました。《領域1》毎年実施している遺族が持っている遺品の展示、《領域2》守山空襲展、《領域3》立田飛行機墜落(村長の日記展示と証言集展示)、《領域4》ビルマでの感染症との戦い(小林育三郎氏の体験記から)、《領域5》戦中、戦後の生活用具展。

この中で、領域1の戦争を物語る遺品展示では毎年少しづつ展示数が減

少しています。10年前と比べると3分の2ほどの展示になっています。理由は、①家を改修するとき、うまく引き継がれず抹消されたこと、②遺児が死亡したとき、家族での引き継ぎがうまくできなくて展示会場に出てこないこと。これらの対応として、守山市による遺品を管理する場所の確保が望まれます。

領域4では小林育三郎氏のビルマでの戦争体験を詳しく取り上げました。小林氏は以前、守山中学校での平和学習に招待したとき、戦場で死亡する要因は3つあると語られたのが印象に残っています。①感染症、②餓死、③激戦中鉄砲の玉に当たって死亡。

ビルマでは、特に感染症のマラリアに冒され死亡する兵隊が多かったこと、彼の手帳には記入されていませんが、彼は上官だったので蚊帳に入り寝たのではないかと、蚊によるマラリア感染をまぬがれたのではないかと考えられます。蚊帳を知らない世代も多く来場されると考え、戦中・戦後家庭で利用していた蚊帳を展示したところ、来場者の中で話題にのぼる成果がありました。

小林氏のもう一つ特筆すべきものとして、日記をつけておられたことが

あります。手帳の大きさは今の携帯電話くらいの小さなサイズで、その中に小さい文字でぎっしり戦場での様子を記録されています。これを持ち帰るとき、検問を通過するために靴の中に入れて逸話は有名です。帰国後、「ビルマ戦場日記」と題した書物として出版されています。

一週間の入場者数は合計427名でした。昨年は特別企画「守山空襲」だったので827名の来場者でしたが、それと比べると少ないですが、コロナ流行中のことを思えばまあまあ来場者であったと考えています。中でも8月1日は大ホールで午前中に「市制施行50周年式典」が開かれ、午後は「記念講演」が開かれたこともあり、昼の休み時間と終了後に115

名もの多くの方が来場されました。記念講演終了後は特にたくさんの方がおいで下さり、三密を避けるため一時入場制限を行いました。この入場制限に一人も苦情を言わず協力いただけただことに感激しました。

小中生、遠方の来場者も 平和祈念展

甲賀市甲南町遺族会 大治 正雄

8月23日、27日の会期中、甲南地域コミュニティセンターのロビーにおいて、甲南町延寿会(老人クラブ)の呼びかけに



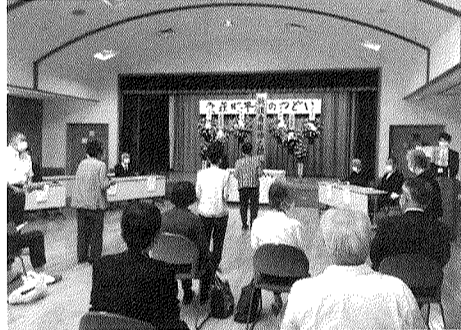
展示パネルに見入る来館者

戦後76年が経過し、戦争を知らない世代が増えている中で、私達の世代が体験し、見聞きした戦争の悲惨さや平和の尊さを子や孫の世代に語り継ぐ責務があり、開催の運びとなりました。

会場には写真や遺品等たくさん展示されました。県の平和祈念館が所蔵されている戦中の暮らしや徴兵検査の様子等を紹介したパネル16点、町内の

資料館に所蔵されている軍隊手帳・軍靴軍帽といった軍隊で使用された戦争遺品や模擬手榴弾、ゲートル、出征兵士への日の丸の寄せ書き、そのほか遺族会員から出品された起床ラップ、検閲印のある家族へのハガキなど約40点、地元甲南中学校で昭和29年より毎年体育祭で実施されている「平和」の文字の写真などです。コーナーの一角に、戦時中、沖縄学童疎開船「対馬丸の悲劇」を知って頂くパンフレットも置きました。

7月31日、愛荘町社会福祉協議会主催、愛荘町同議会、愛荘町遺族会主催による「令和3年度愛荘町平和のつどい」が愛荘町立福祉センター、ラポール秦荘いきいきセンターにおいて開催された。新型コロナウイルスの感染防止の為、出席者は来



遺族である誇りと一歩前へ踏み出す勇気を

「愛荘町平和のつどい」

愛荘町遺族会 村西 昭一

資を含め80名と規模を縮小して催された。この式典は、以前から行われてきた「戦没者追悼式」を平成26年度から「平和のつどい」として引き継がれ、8回目となる。戦没者を追悼し、平和への願いを全員が誓い、確認する式典となっている。

式典は、中西功愛荘町副町長の開式のことばで始まり、黙祷後、北村太一郎社会福祉協議会会長の式辞、続いて土田幸夫愛荘町遺族会会長と大長弥宗治滋賀県遺族会会長の追悼のことば、有村国知愛荘町長と伊谷正昭同議会議長の追悼の辞がそれぞれ述べられ、出席者全員胸を熱くされたものでは270名弱に減少しています。また、戦争関連の遺品も住宅の建て替え時の処分による遺失や代替わりなどにより少なくなっています。

開催期間中、延べ200人弱の来館者があり、地元ケーブルテレビで市民に向けての紹介もありました。小学生、中学生の来場や、新聞掲載により遠くは京都・大阪から来て頂いた方もあり感激しています。

と推察いたします。土田遺族会長は「会員の高齢化が進み、地域での活動や、県・町をはじめ各行事にも参加が難しい昨今であるものの、遺族である誇りをしっかりと受け止め、一歩前へ踏み出す勇気を結集してまいりたい」と述べられました。

また、大長県遺族会長も「近年の自然災害や新型コロナウイルスによる多数の犠牲者が出ている状況は、経済と物心のみならず、心奪われ、平和の礎

川合良雄さん(広報委員会副委員長、6月20日逝去)の死を悼む

高島市遺族会会長 竹井 昌夫



故・川合良雄さん

亡くなられる前日、川合さんが意識不明で病院へ搬送され、重体らしいと聞いたとき、県遺族会における川合さんの活躍ぶりを知る私は強い衝撃を受けました。倒れていた時「遺族の友」の校正作業中であつたと聞き、改めて川合さんに広報委員をお願いしたことを思い出しました。

川合さんが広報に関わってからは「遺族の友」の質が向上充実しました。それは、川合さんの引き受けた仕事は、自身が納得できるまで骨身を惜しまずやり遂げる追及心の

安らかに。

となられた御霊に対する思いをおろそかにしている警鐘がもたれませんか。今一度しっかりと心に刻み込むことを誓う」と述べられました。

その後、滋賀県平和祈念館制作の「戦争の証言2019戦時下の国民学校」のDVDを鑑賞し、出席者全員の献花により式典は閉式とされた。

たままのだと思つています。また、高島市遺族会としても川合さんが広報に関わってくれたおかげで市内の行事も川合さんの文章力によってこまめに取り入れられ、広く伝えることができ、県下における高島の発言力を高めてくれました。

奥様の則子さんに川合さんを広報に引き込んだことへの後ろめたい気持ちを伝えたと、則子さんから「遺族の友」の編集校正について好きな事ですから生きがいを感じていた部分があるので、と逆に慰めの言葉を頂き少しほっとしました。

次から川合さんの署名記事に出会えないことは寂しい限りです。川合さんありがとう。

安らかに。